

申請主体：知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会 | 対象地域：北海道斜里町知床エリア
事業計画名：知床国立公園 交通運行持続可能性検討計画

補助対象経費 総額：6,834,185 円

申請補助金額 総額：3,417,093 円

地域概要・動向

■ 地域の特徴・観光資源等

- 斜里町は世界自然遺産「知床」を有する自然豊かな地域で、手つかずの原生林や海・山・川が織りなす多様な生態系が特徴である。自然と共生しながら、観光振興を進めることが求められている。
- 豊かな自然環境を活かしたエコツーリズムが魅力であり、四季を通じて豊かな自然と独自の観光資源を提供している。



知床五湖



カムイワッカ湯ノ滝のぼり

■ 観光客の動向

	2019年	2023年	2024年(2月時点)
入込観光客数	1,165,149	873,464	942,194
国内宿泊（人）	385,960	279,463	344,416
インバウンド宿泊（人）	47,516	42,568	64,993

※感染症の影響を受ける以前と比較した動向を把握するため、コロナ前後の動向を記入
出展：知床斜里町観光協会

現状の分析

■ オーバーツーリズムの未然防止・抑制すべき事象

現状・問題点		影響を受けている 主な対象
特定の場所 への集中 ・混雑対策の 持続可能性 の低下	知床国立公園内では、新型コロナウイルス感染症の影響や観光船事故の発生といった社会的要因による観光客の減少、さらに令和4年度からのカムイワッカ湯の滝の事前予約制導入により、かつての極度の混雑は解消されつつあるが、依然として知床五湖では繁忙期に道路渋滞や駐車場の混雑が発生している。また、近年のインバウンド需要の急速な回復・拡大に伴い、特にアドベンチャートラベルに関心の高い欧米系旅行者の来訪が増加している。さらに、現在落石工事のため通行止めとなっている知床公園線の工事が令和7年度に完了予定であり、カムイワッカ湯の滝に奥へのアクセスが可能となることで、新たな観光利用の拡大が期待され、知床五湖への一極集中が一定程度緩和される可能性がある一方で、新たなエリアでの観光利用拡大に伴い、旅行者の増加や混雑が新たな課題となることが予想される。 かつての混雑ほどではないものの、現在も繁忙期には知床五湖周辺の道路渋滞や駐車場の混雑が発生しており、現行のアクセス管理施策だけでは十分な解決には至っていない。 これまで、混雑対策として自動車利用適正化事業（マイカー規制によるシャトルバス運行）を実施してきたが、従来の混雑は解消されつつある一方で、新たなエリアでの混雑発生の可能性や物価高騰による運営の持続性に課題が残っているため、持続可能なアクセス管理を実現するためには、現行の施策の抜本的な見直しが必要となる課題となっている。	観光客

写真左：知床五湖の自家用車による渋滞
写真右：知床五湖にて路線バスを待つ観光客



■ 過年度の取組概要

- 知床国立公園では、平成11年より、自動車利用適正化事業（マイカー規制によるシャトルバス運行）を実施し、公園内の適切な交通管理に取り組んできた。これまで、規制期間の見直しやアクセス手段の改善について継続的に議論・検討を重ね、利用者の利便性と環境保全の両立を図りながら、適正な運用を進めている。
- 令和4年度には観光庁の「観光再始動事業」を活用し、落石の危険が指摘されていたカムイワッカ湯の滝に新たな利用制度を導入した。これにより、閉鎖されていた区域が安全に開放され、より魅力的な体験型観光スポットとして整備された。あわせて、入渓には事前予約制を導入したことで、来訪者の分散が促進され、カムイワッカ湯の滝における混雑は一定程度緩和されている。

事業概要

■ 事業目的

知床国立公園の観光需要の変化や新たな混雑の可能性を踏まえ、持続可能なアクセス管理の在り方を見直すための調査・検討を行うことを目的とする。

■ KGI

指標	現状値	目標値
知床五湖 ピーク時の平均渋滞時間	約4時間（2024年）	約1時間（2027年）

効果測定手法：交通量調査

■ 事業概要

知床国立公園 持続可能な交通運行検討事業（概要）

本事業は、これまで継続的に実施してきた自動車利用適正化事業の実施結果を踏まえ、今後の課題を抽出し、現行のアクセス手段をより持続可能なものにするための方策を検討する。この過程で、交通量調査やモニタリング調査を実施し、現状の課題を整理し、与件を明確にすることで、実効性のある施策を導き出す。

特に移動手段の検討においては、単に交通手段としての役割を果たすのではなく、観光客が地域の魅力を体験できる移動手段の導入も模索する。また、環境負荷の少なく、かつ収支バランスが取れたアクセス手段の検討を進める。さらに、観光客の移動の利便性向上を図るため、決済サービスのスマート化や交通機関間の乗り換えルールの最適化を検討する。

これらの検討結果を報告書にまとめ、実現可能性を考慮した上で、今後の持続可能なアクセス手段の具体的な方向性を示す。



シャトルバスを利用する観光客